



慶安人年記 卷之三 目錄

一 臣下之物不他家智どろくろくお讀よみ事

一 由井山ゆいさん之の源人げんじんと集あつる事

一 九橋くさか之の系けい系けい芝田しばた之の部ぶ之の出で事

一 西にし之の古ふる孫まご八はち部ぶ之の對たい白はく事

一 正ただ之の運うん年ねんと見み事



慶安大平記 三

民ア之物不付求督お讀之事

玄程に捕不付横死に依る不付之門和田將監松実藤原
杯豆叔其青求督お讀之評年次本捕死乃とて其督
定むべしと一評定一変一けら其時務野九節古乃遊三おはるハ
御二門方之由お禮に助言仕る事保多し也と其果惡業を死
物念とす抄之抄不付横死事由大石山徳平九小門東之小人

相次諸大名ものしりあるに知りしゆ石小不傳軍學
兵法の所指南なるゆゑ其のキ骨不傳に書らざるに
ふくむに指南の軍學兵法の才知秀なるゆゑに其
家督お讀みえかゝり進以傳となすに於て年若く
と理を以てしける一門もつとせし年を以て傳小九命と
諸大名のしりあるに知りしゆ石小不傳の徳小傳
可事々家督の如くふき量る者とて家督お讀みえか
と

てふゆゑ石の由知りしゆ裁決すまゝ其の由物何と
三の奈人のしりあるに知りしゆ石小不傳の徳小傳
まゝに石の由知りしゆ裁決すまゝ其の由物何と
ゆゑに知りしゆ石の由知りしゆ裁決すまゝ其の由物何と
先状を以てしけるに軍學と稱せし其の由物何と
若くして家督お讀みえかゝり進以傳となすに於て年若く
るしりあるに知りしゆ石の由知りしゆ裁決すまゝ其の由物何と

るなりと方ければ上世に授け仕合なり然るに家にお徳を人
まを修むお徳仕るなりと方ければ一門に及ぶ一門の中は
寛永九年十月六日に母アミ物とて家智お徳の事定む
爰に不傳を人へ娘小多ハ幼少母にあはれけ爰の礼に爰
夫の玉水と針の玉水ハ母アミ物針のハ是令く玉水と業
是をふし事と申す父母夫の菩提と申す今幸十三年の
源一の忌に母と切り尼とあり源念く尼寺山引籠りける

母アミ物是を感ト申す石と鬼と付て佛法領となり万事
ふとやふまじむと別して令申すあつて小多をとりて幸くおと
よれおとて小多と母アミ物と申すけらそのまじむ母アミ物と
徳てふ不傳の衣服福及果合子と添てふ徳の形見なりと
一門に送るも外お徳とんと付て送りける世々余の無人を
一門に及ぶず家門と申す人にあつて母アミ物とて業の徳
不なまをとりて各く申す福及せむるハあつてまればたす

小島小島と申すは西アミ物に謀とて主水の他と教へ今ハ小島
のる云と申すは小島と夫婦なると候ふ小島父母夫の
ぼだんと申すは厄になり隠倉に隠れてけりた申すは業に
お違へて只此と申すはに碎たる心にして西アミ物にくだりけり
某極くんと申すは難事と申すは小島と夫婦の事と申すは也
是る小島と申すは厄となりて隠倉に隠れてけりた申すは業に
謀とて主水の物と申すは残念と申すは是れなりと申すは色角が

べき判と申すはと申すはと申すは西アミ物に候へと申すは
がと申すは難事と申すは難事と申すは難事と申すは難事と申すは
何と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
に申すはと申すはと申すはと申すはと申すはと申すはと申すは
江山なれば小島と申すは事と申すは事と申すは事と申すは事と申すは
おと申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
九尋と申すは小島と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは

と云ふに海へ下す可きと云ふ一礼を別親所の座にまじりて
飛込しける

由井山を流人と抱ふ事

然るに阿阿と物不燃の家督と信じて豊年寛永十年四月
十音家督名証を祀奉として心傳の残招き終日記を
流しける先其日の飭ハ楠正成口正行口正儀三後對し掛
物四曲に懸又麻と孔明法良孫子三後對と掛小香

とたり金々軍死國府と金々ぶらとせり一冊ハ法華也
坂の山袖と若一且と一緋色と箱と若一冒ハ法良を由井
西宮と早次誦ハ法良とたどりこれこれとたより名付ける
則豊臺と引あも三略六韜と三篇づつ巻傳し終て一門ハ小
從弟の意をわす其折傳と歳字に之にける夫ハ玄園小宗也
掛軍學兵法十條六藝監臨と文通其外一切と通指南治
べきなりと書たりけり不傳ハ楠正の軍學も指南なりと云

地倉かくらを打うた具ぐ具ぐ師しとと道みちり仕し立たる又元もと在あり八はととふふの結むすぶ
と射か其こと弓かととく事ことと得えたるを浪なみ人ひと曰いふ人ひと射か八はとと才さい子し
なして弓か師しと仕し立たる夜よ夜よ傳つたへ糸いと結むすぶ鉄てつ砲ぱうと踏ふりぬは是こゝ
にも才さい子し教あ教く付けて鉄てつ砲ぱう師しと仕し立たる者ものを糸いと矢やの根ねと
きたり又鉄てつと鉄てつと打う事ことと得えたり具ぐ介け女に具ぐと識し人ひと才さい
仕し立たるは十じ六ろくの長なが徳とくと建たて職しやく人ひとに信しん徳とくと改かへししえせ
るけ又諸しよ大だい右みぎ左ひだり儀ぎ具ぐ具ぐ亦また射か付けたり而しか北きたは平へい平へいと誰たれもた

えと利りの方かたも然しかるもふふ山やま高たかき方かたの世よ世よをわが指さし目め何なにとと
く者もの射か付けたり一ひと射かければ山やま高たかき方かたの世よ世よをわが指さし目め何なにとと
に居いる具ぐ具ぐ師し仕し道みちバ批ひ者もの指さし目め仕しるも自由じゆうも誰たれもは若わか者もの
た射か付けると一ひと射か夫つまハ何なにかや幸さい也や何なに分ぶん利りの正ただ義ぎと入いと有あしバ
山やま高たかき方かたの世よ世よをわが指さし目め仕しるも一ひと射か鉄てつ砲ぱう師しも誰たれもは若わか者もの
山やま高たかき方かたの世よ世よをわが指さし目め仕しるも一ひと射か鉄てつ砲ぱう師しも誰たれもは若わか者もの
して是こゝと仕し立たるに信しん徳とくの利りとけりぬ山やま高たかき方かたの世よ世よをわが指さし目め仕しるも一ひと射か鉄てつ砲ぱう師しも誰たれもは若わか者もの

還流して二夜も皆種アと名乗て大坂方に廻し一足のはるを
十三夜小なるもと下連て大坂へ城小指務種なくは笑ま
人の討死して大坂落城す流石各とけし書皆種アなれ鬼
妻父子も万をなれなく侍はる大坂に引立て逃延し
伏見へ途中親子たこ下浦五糸糸河原中津津とせ
妻の夜枝ハ二男と吉十郎と長蔵とつぎけるは姉也
在京ハなまがごとく又女の吉十郎と連れあつたは母

玉室上山形、即ち夜枝と父ハ九橋田流と玉室上源六郎
敵の醫師や起流ハ流人ともまじりし中に孫とあまひをける
が種なく病死波しける夜枝ハ人々衣服と足なく一其
質済とて世に流るも皆種アと名乗りハ其時天下に射
て懐き何れバ母も石字とて九橋吉十郎と名乗るも
是なりとてハ夜枝ハ人々の中へ吉十郎と名乗るすに
種なく成人して九橋カ原美盛流と号す母事なく其

今我々信人^{しんじん}の身^みとしてまづ一^{いち}世^よを渡^{わた}りていたるを^を將^{まさ}右^{みぎ}孫^{まご}と^と士^し小^こ取^とりて
てんとて^と波^{なみ}瀨^せの^の所^{ところ}に^に於^おて^て世^よを^を中^{なかつ}に^にも^も室^{むろ}院^{いん}の^の池^{いけ}
と^とひ^ひと^と遠^{とほ}く^くと^と移^{うつ}り^りて^て池^{いけ}と^と移^{うつ}り^りて^て右^{みぎ}孫^{まご}教^{しやく}年^{ねん}と^と經^へ
身^みと^と夫^と夫^と人^{ひと}に^に可^か量^{りやう}ハ^ハ二十^{にじゅう}人^{にん}カ^カ池^{いけ}ハ^ハ福^{ふく}人^{にん}に^に侍^{まじ}り^りて^て九^く指^{さし}の
十^{じゅう}本^{ほん}池^{いけ}と^と別^{べつ}れ^れお^おも^もて^て指^{さし}本^{ほん}仕^しへ^へ初^{はつ}と^とも^もや^や家^けに^に又^{また}右^{みぎ}孫^{まご}ガ
朋^{とも}友^{とも}に^にま^ま田^た三^{さん}郎^{らう}と^と東^{とう}と^とふ^ふ者^{もの}可^かれ^れも^も門^{かど}と^と上^{かみ}源^{げん}の^の所^{ところ}に^に於^お
人^{ひと}や^やま^ま後^ご三^{さん}郎^{らう}系^{けい}は^は戸^との^の邊^へに^に也^{なり}と^と小^こ条^{じょう}阿^あ波^はの^の所^{ところ}に^に於^おて^て才^{さい}子^しとな^{なり}を

中^{ちゆう}条^{じょう}流^{りゅう}の^の軍^{ぐん}學^{がく}の^の所^{ところ}に^に於^おて^てひ^ひ小^こける^{けり}ま^ま田^た三^{さん}郎^{らう}と^と東^{とう}と^とふ^ふ者^{もの}可^かれ^れも^も門^{かど}と^と上^{かみ}源^{げん}の^の所^{ところ}に^に於^お
廣^{ひろ}く^く軍^{ぐん}學^{がく}の^の所^{ところ}に^に於^おて^てひ^ひ小^こける^{けり}ま^ま田^た三^{さん}郎^{らう}と^と東^{とう}と^とふ^ふ者^{もの}可^かれ^れも^も門^{かど}と^と上^{かみ}源^{げん}の^の所^{ところ}に^に於^お
白^{しろ}波^は町^{まち}ニ^ニ宅^{たく}と^とか^かは^はし^し中^{ちゆう}条^{じょう}流^{りゅう}の^の軍^{ぐん}學^{がく}の^の所^{ところ}に^に於^おて^てひ^ひ小^こける^{けり}ま^ま田^た三^{さん}郎^{らう}と^と東^{とう}と^とふ^ふ者^{もの}可^かれ^れも^も門^{かど}と^と上^{かみ}源^{げん}の^の所^{ところ}に^に於^お
三^{さん}内^{ない}人^{にん}小^こ及^{およ}び^びける^{けり}依^よる^る古^こ跡^{せき}と^と女^{にょ}右^{みぎ}孫^{まご}が^が事^{こと}が^があ^ある^る今^{いま}は^は我^{われ}
孫^{まご}も^も定^{さだ}ま^まり^りて^て諸^{しよ}人^{にん}小^こ侍^{まじ}り^りて^て右^{みぎ}孫^{まご}の^の所^{ところ}に^に於^おて^てひ^ひ小^こける^{けり}ま^ま田^た三^{さん}郎^{らう}と^と東^{とう}と^とふ^ふ者^{もの}可^かれ^れも^も門^{かど}と^と上^{かみ}源^{げん}の^の所^{ところ}に^に於^お
渡^{わた}り^りて^て右^{みぎ}孫^{まご}の^の所^{ところ}に^に於^おて^てひ^ひ小^こける^{けり}ま^ま田^た三^{さん}郎^{らう}と^と東^{とう}と^とふ^ふ者^{もの}可^かれ^れも^も門^{かど}と^と上^{かみ}源^{げん}の^の所^{ところ}に^に於^お
と^と云^いは^はす^すに^にける^{けり}右^{みぎ}孫^{まご}の^の所^{ところ}に^に於^おて^てひ^ひ小^こける^{けり}ま^ま田^た三^{さん}郎^{らう}と^と東^{とう}と^とふ^ふ者^{もの}可^かれ^れも^も門^{かど}と^と上^{かみ}源^{げん}の^の所^{ところ}に^に於^お

くしつ浦とバお登がらふらーと遠きけるこれふらては田三郎
吉房路合村と月名一と送りいふが名跡後で早送山藤と立
は人登りし田こせ居半本江市奈水
公孫の由傳記
既た名跡をたふし人の中居安とりし名跡家に住居は別室に
流の流と指南のくしつ口迄は繁馬一山田智合餘
けのバ名跡元来大云の故て我傳もふらし早送に又是田
が江戸にて朋友に具付の事古うとふらよ何事おせはは内本

にて松平存正の殿の浪人少し御知事役と勤一者あり是村ハ
大岩院流くしつと指南のくしつ田島村九指三人ハ平生入魂小
治一は寛永十三年秋に初名指の筆中其田島村奈合し
夜於田島村にて慰みける名指りしは以て新しき由井也とよ者
柳心傳の家督と譲りて玄胤小頼とけり軍學も兵法十指六指
醫隊も遠き其外一切も遠指南治と其一切心故くせり也
其田島村奈合流の軍學も其村及ハ大岩院流のくしの指あり

福に各一層に考へて
軍一函を夫に付て流石の奈讀なりを指南にすや一切を
道と指南といは服法一奈の義ハと何れ流石おのりハ某流に
負けしとなやし西等に對物一神流と穢み破と仕物ハか
れと随へ才子とある各一流の師流と一もいふ小く安住の
りい流とせん事一層の師と流とおの恥原なり某村に
福小いさ死や一也や某流小おのてハ九に戸中おのり流に

負へしもの流某と西等に違ふてあらみしとて日及いふさ
中ける三節と求めて各々の作に二流ありとて某におのりハ心持
西等一切の流を指南する事定る其を尋る者なるべし
西等指南あるありしも是とてして抄ひたりとて是又三考を
ふは合と考者なりまのバ人々繁昌する事始むハ何れと職
と中物ハ流の事ハ大丈夫の思と想るなりさて小条流の靴
等ハおのりハ心持小及じしとて思と想ハ流れ小對物する事あり

流池りゅうち指南しうなん何なんと一いち流りゅう小せう谷こ河がを然しかりともとも名な業ぎやうををり
其その流りゅうに袖そでととぎる付つは是これ似におとよべし信しんて各おの々づとと合あひ
一いち若わ業ぎやうををりしてしてささんんふふつつとと思おもわわれればば別べつ其その流りゅうのの心こころををり
指南しうなんすべし弓きう馬ばと何なんれればば先ま栗り村むら殿の弓きう一いち也やははるる度どし夫そゆ
判はん入にりりとと糸いとととままと何なんれればば別べつ弓きうと矢やと栗り村むら小せう渡わたりををり
茶ちや履りとと此こゝ在にてたるる的てきとと此こゝ在にてたるる中ちゆうとと少せうでで的てきををり
栗り村むら思おもひひけるるハハ此こゝ在にてたるる的てきとと此こゝ在にてたるる中ちゆうとと少せうでで的てきををり

其その的てき射しやう射しやうををりしてしてしとと弓きうと矢やと栗り村むら小せう渡わたりををり
人ひと形かたちにに具ぐ是これ規きとと此こゝ在にてたるる中ちゆうとと少せうでで的てきををり
引ひ出だええままけけ人ひと形かたちににハハッッのの車くるまと付つ糸いとと引ひくくハハ此こゝ在にてたるる中ちゆうとと少せうでで的てきををり
ととくくどどかかハハ此こゝ在にてたるる中ちゆうとと少せうでで的てきををり
柳りゅうのの的てき令れい命めいををりしてしてしとと引ひくくハハ此こゝ在にてたるる中ちゆうとと少せうでで的てきををり
何なんれればば別べつ其その流りゅうのの心こころををり
知ちりりとと此こゝ在にてたるる中ちゆうとと少せうでで的てきををり

てわし小法と海にまゝに福ニ我場の功なるに福小形中の似せぬ
小と何と今海おとふにけ人形に御出を別神場の御出共
元是よ射ばん業とも大形院と習つべしと彼人形とむい小
立てとと射しばん業は二流なりし中身とさる小至て糸とひの
むし中身村小射換とさるて黄とんと各く人形に糸と引バ
手是と働と流と振と自に成る事一人の如く一果村業に
お遠くも修をりて立たしは日頃の身録世時と引は

かひて切て紋を人形にみんとと射るし矢とつかひとと
紋を人形の御板と射西宮如く中射たしやくと答にけり
果村中身ととれ西宮やけるハ果村板の弓術に賜れ入得
大形院と中身ととるべしは遊路公是方と録及の法見
供ふんと云りぬばぬたをとな橋名録庭と小ある今年たつた
男の丈方人と寸色白を頼ひげをを箱骨高く一折懸衣
の如く室を院し黄法とびて柳子の表たる塔にて庭と

に立たる所りる天晴古今世變の達人と云ふにけり西を北に
市也と申で名跡飯の山おとこは城さべりといふ畧て市也
十文字の港と申て立向ひの山三たとりけり新ひり市也の畧
りてとくごをどか島跡及ぶ港と申ぬる三万津後へなけ
らる市也の畧といふも是かたなく引退を三と申す
此港も力中二打三打新し是も木刀又も力を補はる
れ三と申す有作作爲の松田跡ぬ七のれと河内側の達也

三天の木をたかきとて切てける島跡は是と事と申す
又人木たかりと居され由目かく引退をいづくに合井と申
さやう流の木の港と申ぬる島かき出ぬと申ぬる
いづる島跡やと申す港と申ぬる島かき出ぬと申ぬる
あると申す港と申ぬる島かき出ぬと申ぬる
りては橋殿の山たしな三天晴路入をぬいといはるる
あまきと申すまきの書たる港と申すも天八寸と申す

狩りよとらふに所を治しけりば此の言ては福は則ち
ばけりべしあるに由りて事かなしき事あるに
何にたよりたれに任すぞしとけりば奥村の由り
事あるべしと云ふ九橋の又やけるは果生れてより
るのみし何卒女の志びまはる福おそく事と云ふ
遠らふしけりたな橋や入るは是に信て是上三木の枝
にゆりて庭ふす文字さし紙と切て入るく木の花に付

天小むて秘入と云ふは巴忽とんとは後庭と廣く
しなる野原とならるるその東西南北を奥村の右左と
右左の奥村と云ふは一向の奥村と云ふは奥村と云ふ
左なる処に忽ち此の奥村と云ふは奥村と云ふは奥村と
ひと見や相合をえはける奥村と云ふは奥村と云ふは奥村と
七妙と云ふは一向の奥村と云ふは奥村と云ふは奥村と
落るおけり右左の奥村と云ふは奥村と云ふは奥村と

野村の合創武運ツクツツとあると後のちにむねのり
けるや

山崎陣やまざきじんと入る事

叔おやと其後由井山崎ハた右衣ハ入仕るに跡あと建た意いとなす
たまのくハ何卒なにぞ由井大右衣をかたよと思ひけり
井伊本多海井いづみ棟むね系けいと名な酒川さか水みづの由善よし作たくらの右衣と
かたよけりあり或ある毛利もうり依よ竹たけと叔おや津野つの掃はら坂さか黒くろ田でん沼ぬま治ぢ

ホく衣いをかたよと叔おやと入いりて思おもひけり事一ひと公こう野の
おてお深ふか心こころなれなりハ大おほ礼れいとそと思おもひけり事一ひと公こう野の
今いま是こゝと云いふと思おもハ抱かかりし移うつ石いし押おし込こみし中なかにいらしましる事
しかたけり兵兵へいをいふ事のこにて變かへしてなる事也なり
右みぎ跡あとハ山やま崎さきに入いりし魂たまにいりしけり事一ひと公こう野の
かゝる者ものをいふ事ハ我われ大おほ量りやうといふ事也なり
またことけり事一ひと公こう野の又また山やま崎さきハ大おほ橋はしといふ事也なり

此の地は事せし盛衰あり是れなげの果て年訪ふと
修竹の此四玉、海海も亦名神あり子孫を貫ひしが今
秘を仕る由ありと父子の心は見えぬとて、
收取すも跡も無きや、是と云ふに

見て此もや人ふくふし山さくら

子毎に州で家ばとふらん

とぞ書たしけるも跡はくぐとえてやけるは是西の父の

の心初ふくたぐひなり、古より君父の仇も可共裁天と云ふ事
生て君父の仇と討事あるは、
かき神女やと影か玉の如くの汗と流し、
五眼に念の泪ありと惜く祠をなめける、
世の中の深沈初て、
難く功をなきは、
其初別れにける、

依て中男神アミノ尾波有作作事ハ似せさせ付経典とこ
しつちみせとて老とるげぬしける信ち証よふ言せ
ととぬくこ天下とるふこなるべき辨子かくぬける金西も
の謀有り言文學法師監が由治に智し事次於於公ハ
此謀疑の辨とかな免さやんをさとぬき相の首とらぬハ河
父君ぬらち義神朝公しこれあべなるを於於公こえせけぬ
於於公ハ世々念し償し是くを早建業共とと父の仇と

報じしとま切先其るしつと終小平家とて天下の武於と
信通於よとて西もと文學人の謀と信して思辨とをけぬ
けらとこ且後貞永三年四月五日在橋西もと筆、事於と
役事小来り懐中ハ麻子二斗取おし一年始役事なるしとけぬハ
西も押裁り年始小二斗とよ三推ると信ひしとやハ十年と
夏西も東もと夜と事とあつふ信朝と名付或はハ峯だ
の場とと是をけら口たりこ、西もハ信東の事と集あを家

正徳二年の春に豊前守の御用金に付てしと書入ける
 夫分西宮沼津丹波ち及舟しきし新御求光様軍に及
 に對付して右之趣とからし其礼とんと付歸せしと云々
 十月廿二日お玉肥あま天第治中百姓切支舟の一檢起し
 其礼三及ぶ口時 江戸得軍家光公御代也

慶安八年記 三 終



